

 コミセンレポ[®] —和白5校区など地域の注目したい情報です—
第3回コミセンまつり、バレンタインデーに開催！

今年のテーマは「5校区LOVE」！

2016年2月14日。今年はバレンタインデーに「第3回コミセンまつり」が開催。あいにくの曇り空でしたが、昨年を超える約2,000名の地域の方々にお越しいただきました。5階多目的ホールでは、25団体やサークルの発表がおこなわれ、ステージでは子どもたちのダンスからシニアの熟練の技まで、多くの出場者や観客で賑わいました。

そして今年の目玉は「ロープジャンプ大会」。1チーム10名で、3分間の跳んだ回

数を競いました。最年少は小学4年生、最高齢は77歳と幅広い年齢層の闘争心が爆発！規定の3分で連続120回を跳んだ「今年も義理チョコだけ…」チームが優勝を飾りました。また、ダブルダッチ（2本のロープで跳ぶ）の体験会も実施され、難易度の高い種目にも関わらず、何度も挑戦する方の姿も目にしました。

そして「ひょっこ踊り」が今年もまたのフィナーレを飾り、老若男女たくさんの方々の笑顔が満開になりました。今年も地域の皆さまとのつながりがより強くなつたと感じました。



▲まつり当日の様子



▲ロープジャンプ。盛り上がりました！



wajico [ワジコ]

vol. 12
2016 Spring

pick
up

わじろじまん  故郷の忘れ得ぬ風景「奈多松原」

わじろ元気印  笑顔が広がる。日向ひょっこ踊り三苦愛好会



コミセン活用術

—私たちの施設を使って、もっと身近に—

ご存知ですか？4F和白図書館の、便利なあれこれ

忙しい人注目！貸出延長もOK

図書館はいろんな本を借りて読める、とても便利な存在です。でも借りても「返却できない」「読み終わらない」など、忙しいことから利用をあきらめたりしていませんか？

コミセンわじろ4Fの図書館には、忙しい方も使える便利な機能があります。まず基本編。本の貸出の上限冊数は1人10冊まで、期間は2週間まで。どちらにしようか悩んだ時も、多めに本を貸出できます。返却に間に合わない！と思っても

大丈夫。開館時間外でも当館1F・2Fや、市内各所にある返却ポストで返却可能です（※返却ポスト対応の本限定）。そして少し上級編。読み終わらなかった本は、次の予約が入っていないければ電話やインターネットで1回のみ返却期限延長も可能です。これなら忙しいあなたも本が読める！図書館の機能をご活用ください。

今回の活用ポイント

- ◎ 1回につき10冊、2週間貸出できます
- ◎ 開館時間外でも本の返却が可能
- ◎ 本の貸出期間の延長ができます



▲悩んでも10冊まで借りることができます。



▲開館時間外はこちらの返却ポストへ。

 コミセンわじろ
WAJIRO Regional Community Center



〒811-0213 福岡県福岡市東区和白丘1丁目22-27

☎092-608-8480 FAX: 092-608-8485

【開館時間】午前9時から午後9時まで（多目的ホールは午後10時まで）

【休館日】毎月最終月曜日（祝日のときは翌日）、及び年末年始（12/28～1/3）

より詳しい情報は、コミセンわじろ公式ホームページをご覧ください。

公式HP | <http://wajiro.info>

facebookでも、コミセンわじろの日常を発信中！

facebook | www.facebook.com/komisenwajiro





地域○○文化

わじろじまん

故郷の忘れ得ぬ風景「奈多松原」

地元の誇り、クロマツの風景

福岡市内の海岸には、風、潮、砂の被害を防ぐ防風林、防砂林として松が植えられています。その中でも奈多校区の玄界灘側にあるクロマツ中心の松原は「奈多松原」として親しまれ、地域住民の大切な故郷の景観、心のよりどころとして愛されています。今回はこの奈多松原を紹介します。松原の保全を行う奈多植林会の今林惣一郎さんに、松原の魅力や現状、そして未来をお話いただきました。

生活を守り、豊かにする存在だった

奈多松原の歴史は古く、1660年、当時の福岡藩主である黒田光之が家臣に命じ、奈多に松の植林をしたことがはじまりと言われています。松原は防風林や防砂林として、長年地元の人々にとって身近な存在でした。昭和30年代までは松が燃料でも用いられ、松林は子どもの遊び場でもありました。「学校が終ると、まずは松林に集合。松葉かき、ビー玉ころがし、焼き芋、キャンプや秘密基地づくりなど、松林は無くてはならない存在でした。しかし燃料提供の役目を終えると、次第に地域住人や子どもたちも寄り付かない場所になりました(今林さん)。」

深刻な松枯れ被害、そして復活

そんな奈多松原が、平成22年頃に大変な危機を迎えます。大規模な松枯れです。カミキリムシを媒介に木に入り込む寄生虫(マツノザイセンチュウ)が、木の健康を奪い、緑々しかった松は変色し、木全体が真っ茶色になり枯れてしまいます。こうなると松の木自体を伐採するしか方法

はなく、松林は本来の防砂、防風の機能を失います。見渡す限りの松林が一時期は数十本になり、寂しい風景だったと今林さんは回想します。「昔わたしたちが遊んでいた美しい松林を、白砂青松を取り戻したい、その一心でした。」地域住民やボランティアが中心となって毎年植樹を続け、累計25,000本の松を植樹。定期的な下草刈りや保全活動を続け、松林は少しずつ緑を取り戻しています。地域の方々の活動は、国など行政からの表彰を受けるなど、社会に認められる大きな広がりになりました。

次の世代に引き継ぎ、守っていきたい

「奈多にはこんなに素晴らしい松原が



① 下草刈り風景。年に5回、地域の方々など60名程度が参加。

② 2011年撮影の松原(左)と、最近の松原(右)。
ほとんど松枯れで覆われていたものが、人々の努力で再び青さを取り戻している。

この人に聞きました!
今林 惣一郎さん
奈多植林会 副会長



地域○○団体

わじろ元気印

笑顔が広がる。日向ひょっこ踊り三苦愛好会

たくさん的人に笑顔を届けたい

今回紹介するのは、三苦を拠点にする「日向ひょっこ踊り三苦愛好会」。平成23年設立、活動歴5年ですが、地域で精力的に活動しています。お互いを「仲間」と呼び合うメンバーのみなさんは、ひょっこ踊りを通して、笑顔と健康と元気をたくさんの人間に届けています。同団体代表の堺さんにお話を聞きました。

一活動をはじめたきっかけは?

もともと私は相撲甚句の活動をしていたんです。そのパーティーの後に必ず「ひょっこ踊り」があり、面白そうだなと思ったのがきっかけです。1年後、甚句の仲間が藤田富子先生を紹介してくれて、仲間が集まり始めました。藤田先生は宮崎で開催のひょっこ踊りの全国大会、個人部門で3位に入賞した方です。

最初のメンバーは5~6人でしたが、その頃、某テレビの突撃訪問のコーナーで三苦公民館の館長さんに「おもしろいのなら、ひょっこ踊りありますよ」と紹介され番組に出たことがあります。それで仲間も増えました。昨年の「コミセンまつり」を見て入った仲間など毎年増え、現在は19人です。三苦だけでなく福津など他の地域の仲間もいます。現在の最高齢は82歳。平均年齢70歳です。



▲藤田先生とメンバーの方々。三苦公民館での練習の際のショット

一活動の特徴を教えてください

踊りの基礎は、まずは腰を振らない踊りを身に付けてから、後は自分のスタイルで。踊りはアドリブ満載です。♪てん・てこ・てん・てこ・てん・てこ・てん♪のリズムに合わせて踊る。全員違うお面を被り、男女共にふんどしを着けて踊るので一見恥ずかしそうに見える人もいるでしょうが、面をつけるので意外と恥ずかしくないんです。誰でも大胆に踊れるんですよ。我々も、経験のないところから始めています。今から始めたい方も、経験なくて大丈夫ですよ。是非ご覧学からでもお越しください。

練習は三苦公民館で毎月第1.3木曜日の2回行います。2時間程度踊るとかなりの運動量になり、夏場は汗びしょになります

が大変と思うことはなく、みんな楽しんでいます。練習日が待ち遠しいくらいです。

一今後の活動について

今年5月に東京で行なわれる相撲甚句の全国大会で、余興で踊ります。呼ばれれば敬老会やデイケア、公民館などどこにでも行きます。笑ってもらえるとこちらも元気になる。踊りを通して、健康と元気を届けるよう頑張ります。



この人に聞きました!

堺 熱さん

日向ひょっこ踊り三苦愛好会 代表

090-1974-3866

活動に興味がある方は、お問い合わせください。



応援課だより

— 地域がつながる、盛り上がる活動を応援 —

地域の“おいしいもの”交流の現場にうかがいます

地域では、夏祭り、文化祭、どんど焼きなど季節のイベントや、寄り合い、サークル活動など交流の場で、よく手づくりの食べ物が登場します。応援課はそんな地域交流の現場を応援しています。応援課スタッフが実際にイベントに参加し、主

催者のお手伝いをしたり、来場者である地域の方々が食べ物を通じて、楽しく会話をしたりにぎわっていたりする様子をレポートし、コミセンわじろのFacebookで紹介するなどしています。おいしい地域交流、今後も注目します。

応援課へのご相談や
お問い合わせはコチラまで

092-608-8480

support@wajiro.info

相談員・スタッフが対応いたします。
日程調整から、お気軽にお電話ください。
応援課情報も載っているFacebook!
<https://www.facebook.com/komisenwajiro>
チェックよろしくお願ひいたします!